

# はまなす通信

勤医協福祉会

〒003-0804 札幌市白石区  
菊水4条1丁目8番6号  
TEL011-811-8002

社会福祉法人

勤医協福祉会だより

Rosa rugosa Mail

2021 秋冬号

2021年秋冬号（通算第12号）  
発行責任者 松本 宜子

## 就労継続支援 B 型事業所

## げんき

### 勤医協福祉会で初めての 就労型障害福祉サービス

2021年4月、勤医協福祉会としては初めての事業  
就労継続支援B型事業所げんきを開設しました。

11月末の利用者数は17名と順調に増え、主な作業の「カット野菜」「パソコン解体」の事業もすつかり軌道にのり、「コロナのもとでも楽しい事業所運営を進めています。」

開設前から勤医協が取り組む障がい者の事業に対する期待と関心は強く、友の会、ケアマネジャー、相談支援センターの方たちや地域の民生委員の方、民商さんとの幅広い連携・協力も進んできました。最高齢80歳となる利用者さんは「仕事をするのが楽しい」とカット野菜部門の εργασ 的存在です。15年引きこもりとなっていた方も民生委員の紹介を受けて、今では毎日

元気に通所しているなどの経験も生まれています。

利用者さんの障害の内容も、年齢もまちまちですが、それが今の事業所にとってはとてもよい効果となっています。この秋には高等支援学校から2校3名の方が実習に来られ、「卒業したら来たい」との抱負を語ってくれました。

職員も障がい者事業の経験はほとんどなく、手探りで運営していますが、勤医協の医療、介護で鍛えられた経験を活かし、民医連の理念を掲げて奮闘中です。

これからも皆さんの温かいご支援を心からお願い致します。

就労継続支援  
B型事業所  
げんき

〒007-0870  
札幌市東区伏古  
10条2丁目19-8

TEL 011-792-7213  
FAX 011-792-7216



## 2021年度 実践事例報告集会開催

コロナ禍で変化したこと、守り続けたこと  
～時代に合わせた実践を学びあおう～

2021年12月11日に実践事例報告集会を実施しました。今年度は「コロナ禍により初のオンライン開催で、テーマは『コロナ禍で変化したこと、守り続けたこと』時代に合わせた実践を学びあおう」とし、勤医協福祉会17センターから29演題の応募があり、認知症・看取り・倫理・連携と4つの分科会にて実践報告を行い学びあう事が出来ました。

当日の集会には約160名の職員が参加し、コロナ禍により通常の支援が出来なくてもどかしく感じた事例や、コロナ禍でも利用者家族を守るために連携しながら取り組んだ



事例など、民医連の理念に基づいた事例を多く共有する事が出来ました。

また、勤医協札幌西区病院の吉澤院長の特別講演では、時間軸や空間軸という流れについてや歴史、背景を学ぶことの大切さを感じる内容で大変学び深いものでした。日々実践している事をお互いに学びあう事の大切さ、実践を事例としてまとめる大切さを学ぶ事ができ、今後も続くコロナ禍を乗り越えていきたいと感じられる集会になったと思います。



## コロナ禍だからこそ 地域とのつながりを

毎年行っている友の会活動

拡大月間では、職員や友の会員さん共同で、健康相談会や学習会、署名活動、訪問や電話によるアンケート調査、友の会員拡大や会報誌「いつでも元気」の購読拡大に向けた取り組みを行っています。今年の拡大月間は「コロナ禍で不安が渦巻く地域の中に、友の会活動を知らせ、広げ、つながろう！」をスローガンに、9月～10月の間で取り組みました。

### 友の会員さんが

#### 活動を工夫

白石区にある高齢者住宅かしの杜では、コロナで交流の機会が減ってしまう中、健康づくりに役立ててもらおうと、入居者さんが中心となって「いつでも元気」を活用して健康な身体づくりのポスターを制作して、食堂の掲示板やエレベーターの中に掲示し、購読拡大を訴える工夫をしていました。

また、訪問や電話による地域での困り事に関する実態アンケートでは、「家族から外に出ないと言われる」「コロナで定期検診が受けられなくなった」といったコ

ナ禍での困難さを訴える声や、「ケアプラン有料化を進めよう」として

いるとは知らなかった」「医療費が2割になるのは困る」といった、制度や費用負担増に対する怒りや不満の声を伺ったり、「自分が友の会員なのを忘れていた」と、思い出すきっかけづくりになった場面もありました。

## 友の会活動拡大月間

～地域の声を協同と工夫の活動～



### 地域の会員さんと 974件の対話

昨年に引き続きコロナ禍での月間となり、全体的に思うような取り組みが出来ませんでした。友の会員32名拡大、いつでも元気購読

10部拡大、地域訪問・電話がけでは300名の職員が参加し、974件の対話をする事ができました。

届け!!介護現場の声!

## 介護の日

～介護保険制度の  
改善を求めてスピーチ～

11月11日の「介護の日」に先立って、7日、市民団体と共同し、介護保険制度改善の影響を受けている介護現場の厳しい実情を訴えようと、札幌駅前ですピーチを行いました。特別養護老人ホームの介護福祉士からは、介護保険から外れ有料化となった施設入居者の食費や居住費について、低所得者への負担軽減措置である、補足給付の内容改悪の影響があまりにも大きいとし、「8月の補足給付の内容改定により、特養や老健、介護医療院、ショートステイなどが負担増の対象となった。特養もなみの里では半数以上の入居者が負担増となり、多い方で月4万円以上、年間で50万円以上の負担増となった方もいる。これでは、施設入所を必要としても、



施設サービスを選べない状況が生まれてしまう。介護保険制度は、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みとして創設されたが、貯蓄が無ければ安心して長生きできない制度だ」と訴えました。この改定で、国の負担は100億円程度抑えられる見込みですが、全国の介護利用者27万人が負担増となり、低所得者層には厳しい内容となっています。月寒居宅介護支援事業所のケアマネジャーからは、「介護保険制度開始から21年間、介護相談やケアプラン作成に自己負担は無く、だからこそ地域の高齢者や介護家族等から相談が寄せられてきた。ケアプランの有料化は、介護保険制度をお金がある人限定のものにしてしまつ」と訴え、介護が必要な状態であっても、低所得者層の人たちが相談すら出来なくなると危惧しています。今回のアピールでは、介護現場の生の声を多くのメディアが取り上げ、注目度の高さを知らると共に、声を挙げる大切さを実感するものとなりました。

## 勤医協福祉会で 一緒に働きませんか?

介護職員  
看護師  
ケアマネジャー  
リハビリ職  
保育士

ご応募・ご紹介をお待ちしています!  
人事共育部 TEL (011) 817-2773

### 法人理念 <存在意義と私たちの目標>

私たちは、  
いつでも、どこでも、だれもが  
安心できる医療と福祉をめざす運動と  
利用者の要求に応えた非営利の事業を通じて  
地域社会の発展と福祉の向上に貢献します。

1. 人間らしい生活を支えるケアを、共にすすめます。
1. 平和と人権のまちづくりをすすめます。
1. 地域と共に、民主的に運営し、学び成長します。

2007年4月1日